

佐久地域（小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町）

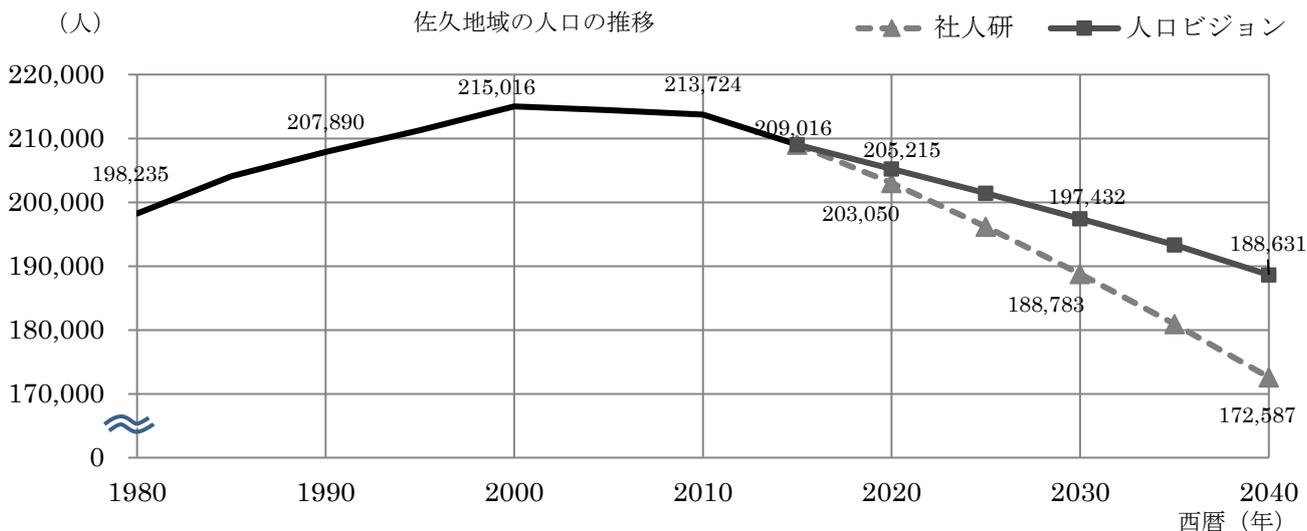
佐久地域の特性

- ・県内でも早くから医療関係者や市町村等による保健活動が活発で、医療体制も充実しているとともに、県内屈指の農業地帯であるほか、信州カラマツの郷土であり、伐採期を迎えた優良なカラマツが豊富に存在します。
- ・軽井沢、立科等の観光地を抱えているだけでなく、晴天率が高く日本三選星名所の1つに選ばれた星空を楽しめます。
- ・国内有数の活火山であるとともに、観光資源でもある浅間山が存在します。
- ・首都圏から良好なアクセス環境に加えて、中部横断自動車道が延伸しています。

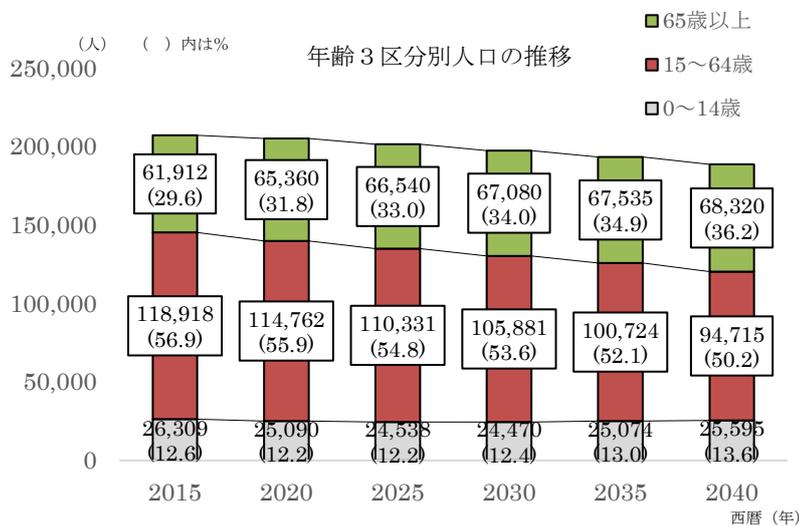
【管内の概況】



【人口】

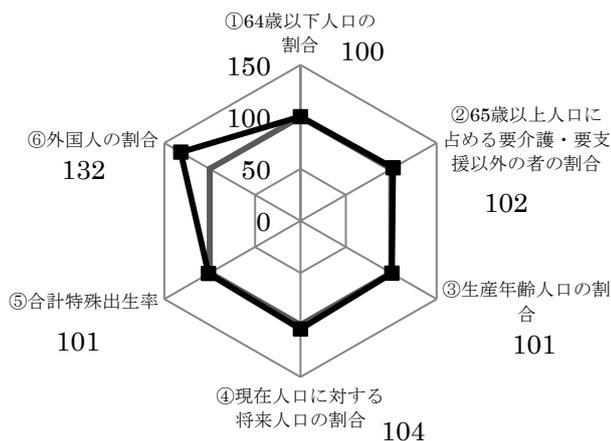


注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン(地方創生総合戦略)



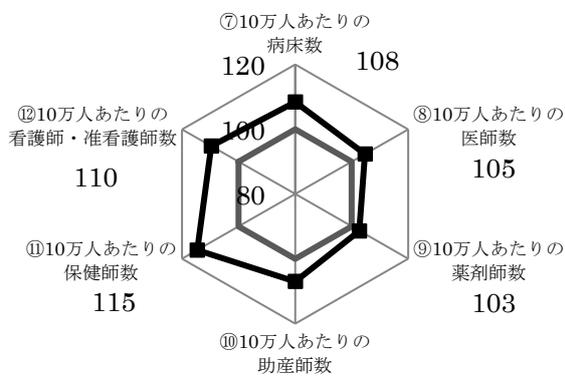
注) 2015年は国勢調査、2020年以降は市町村人口ビジョン

【地域の特徴 (人口)】



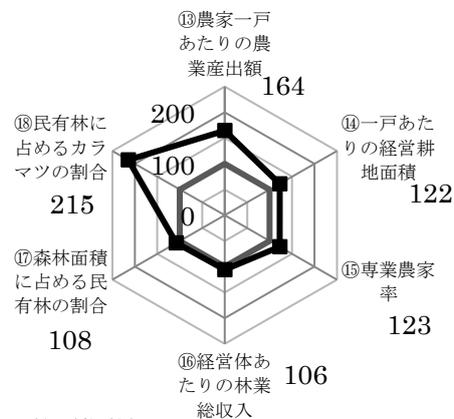
【地域の特徴 (医療・農林業)】

医療体制の状況



注) 長野県を100として佐久地域と比較(指数)

農林業の状況



- ・人口の推移について、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、1980年と比較して2040年は12.9%の減ですが、市町村人口ビジョンの推計では人口減少に歯止めをかける政策により、4.8%の減となっています。また、65歳以上の割合が増加しています。
- ・地域の特徴について、特に医療体制、農林業の状況が充実しており、全ての項目が県平均以上です。

地域のめざす姿

佐久の健康長寿や多様な産業等の地域の特長（魅力）を活かすとともに、地域外との交流を拡げ、住んでよし、訪れてよし、の地域をめざします

- ・保健・医療に関する体制が充実しているとともに、南佐久地域を中心に県内有数の農産物の産地であり、伐採期を迎えた優良なカラマツが豊富に存在するという地域の特長（魅力）を活かして、県民の「確かな暮らし」を確保する地域づくりを推進します。将来的には、地域のブランド化を図り、情報発信を行うとともに、産業の振興（新たなビジネスモデルの創造）をめざします。
- ・標高が高く美しく見える星空や高い晴天率による青空を活かした観光地域づくりを促進するほか、地域の特長（魅力）を活かし、将来的には、県外との交流を拡充するとともに、北佐久地域に集積されている商工業等も活かして、移住・二地域居住をさらに促進し、佐久地域の振興をめざします。
- ・住民、観光客等の安心・安全の確保に向けて、佐久地域特有の資産である浅間山の防災体制を強化するとともに、観光資源としての活用を進めます。
- ・佐久地域の特長（魅力）や産業を活かして、県外との新たな交流や物流を生み出す中部横断自動車道の整備促進に取り組みます。

地域重点政策



1 健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり

健康長寿の推進と健康を活かしたビジネスの創造、経済の地域内循環及びカラマツのブランド化と資源の平準化を図るプロジェクトを実施することにより、健康長寿、充実した保健・医療体制や「地消地産*」を活かした地域づくりを推進します。

【現状と課題】

- ・健康づくり活動が活発で医療体制も充実していますが、高齢化が進んでおり、いつまでも元気で暮らすためにライフステージに応じた身体活動向上の取組が必要です。
- ・県内屈指の農産物の産地ですが、地域内で活用するための物流体制が整備されていない等の課題があり、観光地の宿泊施設等での地元食材の利用促進が必要です。
- ・伐採期を迎えたカラマツ資源が豊富ですが、材の利用拡大が求められています。

【取組内容】

●さくっと「ずく出す」プロジェクト

- ・医療関係者、大学、企業等と連携するとともに、新たに設置する県立武道館や市町村等の関係施設も活用して、働き盛りの世代から高齢者までの運動習慣定着・身体活動向上のための取組を支援するほか、様々な世代への意識啓発を促進します。
- ・市街地等において地域住民や観光客が気軽に健康増進に取り組めるよう、ウォーキングコース等の整備を行うほか、中山道、白駒の池等でポールを使ったウォーキングなどを活用したヘルスツーリズムに取り組みます。
- ・プレメディカルケア産業^注に関連する地域企業との連携や、製品等を活用した産業の活性化を支援します。

注：地域住民が健康意識を高め、より健康的に生活できるよう地域企業や専門家等が連携・協力し、歩き方を計測することでロコモ予防を理解したり、ポールを使ったウォーキングで体力向上を図る等、身近な健康維持・増進の機会を提供する産業を表す造語

●佐久「地消地産」プロジェクト

- ・直売所を核とした流通の仕組みづくり等、地元農産物の小ロット物流を研究するとともに、新商品の開発の支援・研究や信州ブランド魚の冷凍技術の研究等により地域産品の取扱いを増やすほか、上田地域と連携し、地域内農産物等の循環に係る研究を行います。
- ・「健康に食べる」ことを推進する取組や「食」「食育」に関する情報を発信します。

●いづら佐久カラマツ活用プロジェクト

- ・佐久地域産カラマツ材の利用拡大の増進に向けて、佐久地域産カラマツ製品や森林認証等の普及啓発及び上田地域との連携によるブランド力の強化を図るとともに県産材活用住宅への助成を行うほか、皆伐跡地の再生林をはじめとする森林整備を推進することにより林業の活性化を図ります。
- ・森林の有する多面的機能の持続的発揮・増進、森林資源の効率的・安定的供給及び美しい景観の形成のため、間伐、更新伐、植栽等を計画的に行うとともに、森林の健全な育成のために、ニホンジカ等の被害対策を推進します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
要介護・要支援認定率 (厚生労働省「介護保険事業状況報告月報」を基に算出)	14.9% (2016年度)	14.9% (2022年度)	第1号被保険者(65歳以上)に占める要介護・要支援者の割合 [現状維持を目標に設定]
新たに地元食材を利用する宿泊施設数 (佐久地域振興局調)	0施設 (2016年度)	20施設 (2022年度)	モデル地区において新たに地元食材を利用する宿泊施設数 [モデル地区におけるアンケート調査により設定]
民有林のカラマツ丸太の生産量 (林務部調)	53,768 m ³ (2015年)	65,000 m ³ (2022年)	建築・チップ用等に使用される木材(丸太)の生産量 [現状の約20%増加を目標に設定]



2 美しい星空と青空をテーマとした観光地域づくり

小海線・しなの鉄道の観光列車(「HIGH RAIL 1375」、「ろくもん」)や国立天文台野辺山宇宙電波観測所等の天体観測施設を活用するほか、歴史的建造物が存在する北国街道と中山道を活かしたプロジェクトを実施することにより、美しい星空や青空、宇宙を活用した観光地域づくりを促進します。

【現状と課題】

- ・軽井沢町に来訪する観光客に他の地域も周遊してもらうことが必要です。
- ・野辺山高原のある南牧村は、東日本で唯一の天文学者が選ぶ星空が綺麗な「日本三選星名所」であり、これを活かすために、地域全体で光害^注について考えることが必要です。
- ・経験がある星空案内人が限られるため、ニーズに対応しきれていない状況です。

注：屋外照明等が目的物以外の物を照らすことにより、天体観測等の人の活動や動植物へ悪い影響を与えること。

【取組内容】

●星空・宇宙を学び、楽しむプロジェクト

- ・国の天体観測施設等と連携して、子どもたちが将来も星空や宇宙に親しめるような取組や、観光客が学び、楽しむための取組を推進するほか、観望に適した環境整備の研究や星空を活かした商品開発を支援します。
- ・星空を快適・安全に観るため、観望エリア周辺の支障木を伐採します。
- ・光の指向性が高いLEDの普及促進を図るほか、光害対策ガイドラインを活用して光害対策の普及啓発を行うとともに、地域住民等と連携し、美しい星空を保全する気運を醸成します。

●高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト

- ・北国街道の歴史的建造物を活かした整備や東信州中山道らしいおもてなしの強化、歴史文化を活かしたまちづくりや名物の研究等を行います。
- ・観光列車が走る小海線やしなの鉄道を観光資源として活用し、周遊観光を図るとともに、自然や地域の風土に馴染んだ風景等のビューポイントの発掘、整備を促進します。
- ・軽井沢駅から旧軽井沢間について、無電柱化を行い、歩道や自転車通行帯を整備するほか、展望の良い市町村道、林道（スカイライン等）沿線等の整備を支援することにより、観光客を含めた利用者の増加による地域振興を図ります。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 (観光部調)	1,495 万人 (2016 年度)	1,545 万人 (2022 年度)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [現状の約3%増加を目標に設定]



3 地理的優位性を活かした移住の促進と二地域居住の探求

多様な移住スタイルの提示や佐久地域の特色ある取組に関する情報を発信することにより、移住の促進や二地域居住の可能性を探求します。

【現状と課題】

- ・佐久地域は「東京に一番近い信州」として首都圏から良好なアクセス環境下にありますが、地域全体として移住・二地域居住の推進に活かされていない状況です。
- ・佐久地域では地域ごと多様なライフスタイルが存在していることや、生活の範囲が広域的であることから、移住促進のためには市町村のエリアを越えた連携が必要です。

【取組内容】

●佐久地域の移住スタイルの探求

- ・佐久地域に住みながら首都圏に通勤する等、多様なライフスタイルを広域的な視点で分析・類型化し、地域に暮らす「人」や「生活」に焦点を当てた情報発信等を行います。

●佐久地域の特色ある教育・子育て環境のPR

- ・移住につなげるため、保健・医療体制や子育て支援策をはじめとした市町村の取組、特色ある教育に取り組む公立・私立学校の魅力について情報発信を行います。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	323 人 (2016 年度)	449 人 (2022 年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]



4 浅間山の防災体制強化及び活用

地域住民はもとより観光客にも安心して訪れてもらえるよう、浅間山の防災体制の強化と浅間山を活用した観光等を推進します。

【現状と課題】

・国内有数の活火山である浅間山について、防災体制の強化と「恵み」の活用が必要です。

【取組内容】

●防災体制の強化

- ・大規模噴火ハザードマップに基づく市町村の避難計画等の策定支援や周知を群馬県等とともにに行い、地域単位での「減災」意識の醸成を促進します。
- ・山麓観光スポット等において噴火に関する情報を観光客等に発信します。
- ・山麓の民有林の危険度判定を行い、治山事業に反映し、災害に強い森林づくりに計画的に取り組むとともに、噴火の際に火山泥流が御影農業用水路に流入することで発生する越水被害を最小限とするための施設を整備します。

●固有の資源としての活用

- ・火山館コースと黒斑山コースの両登山口を結び、周遊の利便性を高めることで、浅間山の周遊登山を促進します。
- ・ジオツーリズム等の地域活動や地元自治体を実施する登山道整備を支援するほか、専門的な知識を有する人材を「浅間山火山マイスター（仮称）」として認証する制度を検討します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
浅間山登山客数 (観光部調)	3.6万人 (2016年度)	5万人 (2022年度)	浅間山を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [噴火警戒レベルによる入山規制がある中で、ピーク時(H25:7.5万人)の約70%に設定]



5 新たな交流・物流に向けた中部横断自動車道の整備促進

中部横断自動車道の延伸（佐久南 I C～八千穂高原 I C間）の効果を最大限に活かす道路網の整備を進めるとともに、全線開通時を見据えた波及効果を研究します。

【現状と課題】

・物流や医療等の面における時間短縮のほか、国道 141 号のリダンダンシー（代替）道路の確保のため、中部横断自動車道の早期の全線開通が必要です。

【取組内容】

●八千穂高原 I C までの延伸効果を活かす道路網の整備

- ・延伸の効果を波及させるため、周辺道路の整備を図ります。

●八千穂高原 I C までの延伸効果を活かした移住・定住及び観光誘客の促進

- ・通勤エリア等が拡大することを活かして移住・定住を促進するほか、首都圏や軽井沢を起点とし、八千穂高原、野辺山高原等の南佐久地域が結ばれることから地域全体の周遊観光を促進します。

●八千穂高原 I C までの延伸効果を活かした地域産業の発展と産業誘致の促進

- ・「東京に一番近い信州」の効果を活用し、製造業をはじめ地域産業全般の発展と産業誘致を促進します。

●早期の全線開通に向けた気運醸成と全線開通後の波及効果の研究

- ・山梨県等と連携を強化し、未整備区間である八千穂高原 I C から長坂 J C T（仮称）までの建設促進の気運を高め、国への要望活動を推進するほか、沿線自治体等と一体となって地域住民の早期合意形成に努めます。
- ・全線開通時の影響について「人の流れ」（広域観光）や「物の流れ」（地域内、長野県と日本海及び太平洋臨海部の物流）といった側面から効果や活用方策の研究等を行います。